

2nd circular

2015年9月10日

\*\*\*\*\*

\* 日本科学者会議東京支部創立 50 周年記念 \*

\* 第 18 回東京科学シンポジウム \*

\* テーマ： 理性と希望の平和な時代を拓く \*

\* — 知の連鎖を強大にし、戦争勢力を包囲する — \*

\* 開催日時：2015 年 11 月 28 日（土）～29 日（日） \*

\* 開催場所：拓殖大学・文京キャンパス（文京区小日向 3-4-14） \*

\* 主 催：日本科学者会議東京支部 \*

\*\*\*\*\*

## 第 18 回東京科学シンポジウム 2nd Circular 発行にあたって

実行委員長 長田好弘

第 18 回東京科学シンポジウムのサブタイトル「知の連鎖を強大にし、戦争勢力を包囲する」に呼応したかのように、知の潮（うしお）は国会を連日包囲しています。全法曹、憲法学者、分野を超えた多数の学者が、これほど粘り強く意思表示したことはありませんでした。そして言葉をないがしろにする安倍政権への文学者の怒り。シールズ (SEALDs：自由と民主主義のための学生緊急行動)、トールズ (TOLDS：東京のデモクラティックな先生たち)、オールズ (OLDS：自由な民主主義のお年寄り)、ママの会、…。シールズの運動の中心メンバーの共通点が、これまでの地道な平和運動や市民運動の担い手であった両親や教師の背中を見てきたことであることを思うと、まさに感無量です。

戦争法案は参議院の審議に入り、法案への懸念は広がるばかりです。安倍政権は国民の「理解の不十分さ」を指摘するが、懸念の広がり理解の証しであることを認めようとしません。集団的自衛権の行使に「避難する邦人を輸送する米艦の防護」「ホルムズ海峡での機雷掃海」の事例をあげましたが、参院での議論で、それらの立法事実（法案の必要性）は覆されました。法案は議論が進むほどにボロボロとなり、あげくの果てに、「法的安定性は関係ない」と言い放つほどに、民主主義否定と独裁政治への暴走ぶりを見せつけています。9月27日の会期末まで残り1カ月弱です。たたかひの正念場です。法案の廃案を勝ち取り、民意を理解できない安倍政権は退陣してもらいましょう。

1st Circular において、大学支配統制のいっそうの強化をめざす「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）」（2015.6.8）の重大性を指摘しました。日本学術会議は、「通知」に示された人文社会科学・教員養成系の学部・大学院の廃止、転換の要求にたいし、「幹事会声明」（7.23）にて「大きな疑問」を提起し、「（大学は）より広く社会を担う豊富な人材を送り出すという基本的役割」を失いかねない、「バランスのとれた学術の

発展を阻害する」などとして、国民的対話を広げ大学のあるべき姿を追求するとしています。またシンポジウムを開催し、半数を占める人文系の学生の学ぶ機会が奪われる、産業・経済に人文系はますます必要、通知は時代に逆行するもの、等の議論がなされました。

日本科学者会議は、その会則で、「科学を正しく発展」させること、「各分野の相互交流」をはかること、「国内国外の平和・独立・民主主義・社会進歩・生活向上のための諸活動との連帯を強める」ことなど定めています。これまでに、科学と技術とが大企業の儲けの手段に偏重して追求され、その必然的結果ともいえる歪み・欠陥・不具合が生じています。克服のために研究者は自らの専門領域をこえての協同（「科学の創造と総合化」）が喫緊の課題となっています。自然科学と人文・社会科学の連携は平和的生存を保障する日本社会の建設に必要な不可欠の条件となっています。私たちは、こうした問題で日本学術会議と対話を広げることが、広範な国民の期待にそうことであると考えます。

東京科学シンポジウムの準備は、平和・護憲・自由への道か、アメリカといっしょになって世界中で戦争をしかける道か、二つの道をめぐる一大決戦のさなか、多くの諸課題とともにすすめられてきました。8月末現在、18の分科会、3つの展示会の設置が確定され、さらには複数の特別報告、プレ企画も検討されています。これまでの取り組みの特徴の一つは、若手・院生研究者の分科会設置数がこれまでに比べて多く、多面的な取り組みがなれていることです。それは将来に向けて大きな意義をもつものです。

私たちは、この間、平和的に生きられることについて、多くを議論し学んできました。銃を人に向けないことを当然のこととし、拘束されない言論と行動があること。誠実な対話と配慮とですべての問題を解決できること。原子力（核エネルギー）問題の正しい理解と一切の不安から解放されること。そして何と言っても政治に知性を取りもどせること。等々。

第18回東京科学シンポジウムが、これらの議論にもとづいて検討が進められている分科会設置をも実現させて、情勢の課題に充分に応えて実り豊かな結果となるように、会員外の方々とも協力し、知の連鎖を大きく広げましょう。（2015年8月末）

## 1. 特別報告 <検討中>

## 2. 分科会

【1】分科会名：科学・技術の現状批判－日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part 8

設置責任者：長田好弘（東京支部）、酒井士朗（武蔵野通研分会）

連絡先：ssakai@jcom.home.ne.jp（酒井士朗）

設置主旨：安倍政権の「戦争できる」国づくりに連動し、宇宙の軍事利用、「防衛装備移転三原則」による武器輸出の解禁、国内外での共同研究の促進、安全保障技術研究推進制度の新設などが進められ、科学・技術の軍事利用とそれへの研究者・技術者の動員が企図とされている。また大震災、火山噴火、原発再稼働、巨大技術の不具合、ハイテク犯罪の続発など、わが国の高度技術社会は多くの重大問題

をかかえている。これらに対応して研究者・技術者が果たすべき役割はなにか。そのために必要な諸条件の獲得のためにどう行動するか。これらの交流と連帯を主とした報告・発言の場としたい。キーワード：軍産学共同、デュアルユース、防衛産業、産官学連携と研究・開発現場の実態、成果主義の破綻、研究者のカロシ、成長戦略とインフラ輸出、グローバル化(研究開発・生産・部品調達など)、高学歴ワーキングプア、科学者会議・労働組合の役割と責任、その他。

#### 【2】分科会名：IT技術と教育・労働・社会生活 part 4

設置責任者：酒井士朗（武蔵野通研分会）、矢作英夫（同）

連絡先：ssakai@jcom.home.ne.jp（酒井士朗）

設置主旨：マイナンバーの導入とその利用範囲の拡大が安倍内閣の「成長戦略」と位置づけられている。年金番号の大規模な漏えいで広がった疑問を無視した政府の推進ありきの姿勢が国民の不安を広げている。IT化により、利便性と効率化が強調されるなか、生産と流通の場で広がる労働強化と事故の多発、個人情報へのIT利用の拡大・監視カメラ・政府機関によるネット監視などへの不安、多発するネット犯罪と情報漏洩、子どもとインターネットをめぐる問題などが重大化している。本分科会は、各分野でのIT化の現状と課題、要求と実現の闘いの経験などを交流し、国民のためのIT技術の発達とその導入のあり方を考える連帯の場としたい。

#### 【3】分科会名：科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 8—

設置責任者：長田好弘（東京支部）、松永光司（同）

連絡先：matsunaga\_mitsushi@hotmail.com（松永）

設置主旨：安倍政権は科学・技術の軍事利用を強め、大学・研究機関を軍事研究に取り込む動きを強めている。また「日本再興戦略」として原発の再稼働とリニア中央新幹線の早期整備を掲げ、福島第一原発事故の収束の見通しもないなか、原発を再稼働させた。さらにリニア中央新幹線計画は必要性・採算性の欠如、電磁波や騒音、トンネル工事の環境影響など多くの問題を放置したまま着工に踏み切った。一方、学校教育法・国立大学法人法「改正」のもとで研究・教育現場の状況悪化は著しい。こうした状況打開のために、科学・技術の側面と同時に政治・社会・経済の視野から諸問題を自由闊達に議論する。

#### 【4】分科会名：日本の食・農と首都圏の役割を考える

設置責任者：西村一郎（東京支部）

連絡先：info@nishimuraichirou.com

設置主旨：東日本大震災やTPPなどの影響もあり日本の農業は、これまでの資本の論理で食料自給率低下に代表される衰退の道を進むのか、他方で地域に根差して国民の求める安心・安全・安定な食を担うため、後継者も育ち健全に発展するのかの曲がり角にきている。そこで農学や栄養学だけでなく、戦後の我が国の農や食に関わる政策・科学・産業・文化・マスコミなどの動向から総合的に見直し、社会が求める今後の方向性と、その中で首都圏の役割を参加者と一緒に考える。

#### 【5】分科会名：今後の電力システム変革で市民が勝ち取るべきものは何か？

設置責任者：佐川清隆（東大分会）、石綿勇（武蔵野通研分会）

連絡先：isiwata.isamu@silver.plala.or.jp

設置主旨：原発事故とその後のエネルギーミックス・電力システム改革の議論は、今後の電気事業の様々な問題を提起しており、対処すべき深刻な問題を多くはらんでいる。本分科会では電力事業の「発電」「送配電」「販売」のそれぞれの段階について整理をし、市民の立場からどのような課題と展望があるのかを議論する。キーワード：「加害と被害」・「気候変動」・「情報通信・スマートグリッド」・「電力市場・産業」・「市民・地域主体と電力」など

#### 【6】分科会名：原発問題を考える文学サロン

設置責任者：風見梢太郎（作家、東京支部）

設置主旨：福島第一原発の過酷事故から四年半がたちますが、汚染水問題ひとつとっても収束からはほど遠い状態です。また避難生活を送る人々の苦しみは限界にきています。このような状況の下、原発の再稼働や原発輸出が目論まれていることは全く許し難いことです。この分科会では、最近書かれた原発に関わる文学作品を元に、原発の廃止に向けて文学に何ができるかを探りたいと思います。前回、前々回と同様に、関心のある方々が自由に交流できるサロン形式にしたいと考えています。

#### 【7】分科会名：人間らしい労働を取り戻すために－司法の場を含む権利を守る闘いの前進－

設置責任者：河上茂（東京支部）、米田貢（東京支部）

連絡先：skawakami@kmail.plala.or.jp

設置主旨：企業における労働の場での権利を守る闘いについての最近の前進について討論し、今後を展望する。前回(第 17 回 2013 年)の分科会の続編として、JAL 不当解雇・不当労働行為と京王バス過労死事件についての司法の場での闘いにおける具体的な報告から、ILO の労働者の権利を擁護する諸条約と勧告、地労委の救済命令、労災認定訴訟など司法の場を含む人間らしい労働を取り戻すための展望について議論する。

#### 【8】分科会名：東京大改造と都市防災

設置責任者：中山俊雄・坂巻幸雄・川合将文

連絡先：otto.nakaya@gmail.com

設置主旨：中央防災会議が首都直下地震の切迫性(M7 クラスの地震が今後 30 年以内に発生する確率 70%程度と推定)を提起したのは、2005 年(平成 17 年)のことである。今、東京は、2020 年東京オリンピックにむけて、都市の大改造が始まっている。東京都は、「世界一の都市」への飛躍に向け、「高度な防災都市の実現」を掲げ、基盤整備に 2423 億円(平 27 予算:前年比 2.23)を計上、一方で、鉄道・不動産など民間企業主導による、大規模都市再開発が進められている。これら東京大改造計画が真に市民の安全・安心に寄与するのであろうか？本分科会ではこの点を検証していきたい。

#### 【9】分科会名：「復興」を考える

設置責任者：林深雪(東京支部ポスト 3.11 研究会)、星野彬(同)

連絡先：maiko9283@gmail.com

設置主旨：東日本大震災から 5 年が経ちました。「復興」という言葉によって福島が虚飾され、福島県住民の帰還が強制的に進められようとしています。本分科会では、若手・院生の報告を中心に、福島フィールドワークの報告、原発事業に関わる業界や制度の実態、再生可能エネルギーの可能性について取り上げます。もう一度福島の現状を知り、これからどうやったら本当の「復興」を遂げることができるのかを一緒に考えていきましょう。

#### 【10】分科会名：大学院生をめぐる環境と運動の展開——とくに全国大学院生協議会を中心に

設置責任者：佐藤和宏（東大院生分会）

連絡先：ushini\_negaiwo3416@yahoo.co.jp

設置主旨：当分科会では、大学院生をめぐる情勢を検討するために、全国大学院生協議会(全院協)を視点として高等教育を振り返る。第一に、全院協アンケートの総括である。当資料は、全国の大学院生の実態を明らかにしてきた重要な資料であり、この要約を発表する。第二に、全院協関係者による実践からの語りである。ここ 10 年ほどの間、激動の情勢で何を課題とし、どう実践し、どう総括したのか。事務局経験者をお呼びして議論を行う。

#### 【11】分科会名：支部活動のいっそうの活性化をめざして

設置責任者：山川賢次（運研分会）、松永光司（東京支部）

連絡先：kyama804@ae.auone-net.jp

設置主旨：支部活動の基礎は分会活動の確立・活性化にある。また科学懇話会など東京支部の地域活動は、会員の「身近な居場所」、「交流の場」であるばかりでなく、「今ほど国民が科学を必要とし、科学に接近・到達しようとする自覚を強めている時代はかつてなかった」(1st circular)といわれる今日の情勢の下で、その意義は大きくなっている。そして個人会員の比率が増している中、個人会員フィールドワークなどの創意ある活動も重要性を増している。大学、職場、地域における分会活動、個人会員活動、地域活動のリアルな経験を交流し、学び合い、支部活動のいっそうの活性化をめざす場としたい。

#### 【12】分科会名：リニア中央新幹線に関する諸問題

設置責任者：佐伯有真（東京支部）

連絡先：rsk88898@nifty.com

設置主旨：リニア中央新幹線の建設が 9 兆 3 百億円規模で進められようとしている。しかし、そこには経済性・採算性、施工・運用時の安全性（地盤脆弱性、地震対策、トンネル火災）、環境破壊（地下水枯渇・汚染、電磁波・騒音障害）など様々な学問領域にかかわる問題が存在する。そこで本分科会では、各学問領域に関する問題および既存の住民運動について報告を行っていたき総合的な討論を行うことで、リニア新幹線問題を多面的に見直し、問題点をより鮮明にする。

#### 【13】分科会名：（戦後 70 年）次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者

設置責任者：中島明子、石渡真理子

連絡先：mamanotanuki@yahoo.co.jp、i-mariko@jcom.home.ne.jp

設置主旨：戦後 70 年を迎える中で、戦争法案を頂点とした安倍内閣による戦争のできる国づくりが急展開で進んできています。併せて安倍政権の「女性が輝く社会」づくりは、「輝く機会」を保障されず、男性以上に競争と差別と偏見の下で苦しんでいる多くの女性研究者がいることが明らかになっています。分科会ではこうした状況を背景に、以下のことを目的に開催します。

第 1 に、戦後 70 年を迎えた現在、学問・研究・教育における平和の視点の重要性を確認すること

第 2 に、各分野で蓄積してきた、平和とジェンダーに係る研究成果からの教訓を得ること。

第 3 に、平和な社会を構築する若手研究者・技術者・学生の活動を推進する契機とすること。

#### 【14】分科会名：軍学共同の現段階と対抗論理

設置責任者：多羅尾光徳

連絡先：tarao@cc.tuat.ac.jp

設置主旨：2015 年度より防衛省がはじめた競争的資金「安全保障技術研究推進制度」により、大学・独法における軍事研究の拡大が懸念される。学問の軍事化を押しとどめるには何が必要か。軍学共同に抵抗する大学・独法における運動の当事者たちを招き、軍学共同の現状を把握し、対抗する論理を構築する。

#### 【15】分科会名：日本の大学改革を考える

設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）

連絡先：sakuma@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置主旨：現在、日本の大学は崩壊の危機に瀕している。学費高騰が教育機会を奪い、競争の蔓延が構成員の疲弊と研究教育の制約・劣化を招いている。ところが、政府・文科省はこうした問題に目を向けず、国際競争力の回復など財界の利益を重視した政策を押しつけるため、問題の深刻化に拍車をかけ、日本の大学改革は迷走している。いま日本の大学はどうなっているのか、何が問題なのか、国民多数が望む大学を作るにはどうすれば良いのか、といった論点について、研究者、組合、自治会など各分野からの報告を受けて考えていきたい。

【キーワード】:教育権の侵害、競争による疲弊、専断的運営への規制、構成員自治の尊重と自主改革、直接助成、基盤的経費の抜本的拡充など。

**【16】分科会名: 日本的流通の再構築——価格競争の疲弊から持続可能へ**

設置責任者: 佐久間英俊 (中央大学分会)、栗須格 (流通政策研究会)

連絡先: sakuma@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置主旨: 現在、日本の流通は機能不全を起こしている。バブル崩壊後の四半世紀に低価格競争の影響で利益率が落ち、大手企業が賃下げや流通費用の削減など労働者と中小企業・業者への負担転嫁を強めたため、ワーキングプア、商店街の崩壊、買い物難民の発生など深刻な問題が流通や消費の至る所に表れてきている。本分科会ではいくつかの商品分野を例に日本の流通の実態を考察し、そこで生じている問題点を析出するとともに、持続可能な流通を展望して、市民や中小業者の立場から問題の解決策を提示する。【キーワード】: 中小業者への負担転嫁、シャッター商店街、フードデザート、ブラック企業、独禁法の運用強化、商業者の生計が成り立つ価格設定など

**【17】分科会名: 軍事大国化・グローバル化の批判的検討—その対抗策は何か—**

設置責任者: 土肥有理

連絡先: posaunenstadt\_de2792@yahoo.co.jp

設置主旨: 当分科会では、安倍政権の2つの性格、つまり軍事大国化と新自由主義という視点からの現状分析を行うことを主眼とします。特に、憲法学の視点からの安倍政権批判と日米安保体制との補完性、軍事大国化と経済とのかかわり、沖縄に象徴される国内の抑圧・差別の構造に対する批判的なまなざし、国外からの日本の動向に対する評価などに焦点を当てた検討をします。法学、政治学、経済学および文化研究など、複数の領域からの批判的検討の後に、平和と民主主義を軸とする対抗策についても議論をしていきたいと思えます。

**【18】分科会名: 日本経済の現状を考える**

設置責任者: 工藤昌宏

連絡先: kuma@stf.teu.ac.jp

設置主旨: 2012年末に誕生した安倍政権は、日本経済再生を最重要課題に掲げ財政支出、金融緩和、規制緩和を軸にした経済政策、いわゆるアベノミクスを行っている。以来、3年ほどが経過したが日本経済は政府の強気の姿勢とは裏腹に、再生どころか停滞し続けている。

そこで本分科会では、以下の2点を主な課題に取り上げる。第1に、1990年代以降の日本経済の停滞構造とその原因を巡っての報告討論を通じて日本経済の実態解明に迫る。そしてそれを踏まえて、第2に日本経済に及ぼすアベノミクスの影響を考える。

## 4. ポスターセッションの募集

統括設置責任: 日本科学者会議東京支部事務局

設置趣旨: 東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

## 5. 展示 (シンポジウム期間中開催)

【1】日中友好と歴史認識のための展示 <依頼中>

【2】日本・キューバ友好の展示 <依頼中>

【3】日本と朝鮮半島の友好 <依頼中>

## 6. プレ企画イベント

### 【1】東京科学シンポジウム記念囲碁大会

盤をはさんでの熱戦のあと、懇談を交えて大いに親睦を深めましょう

<詳細は検討中>

### 【2】講演と音楽とワインの夕べ

秋の夕べに、講演と、音楽と、そしてワインを楽しみましょう。

<検討中>

## 7. 分科会の設置／分科会発表募集と予稿の提出

新たな分科会設置申込も下記期限内において受けつけます。

設置責任者は、分科会への発表論文応募を積極的に働きかけ、期限を厳守してください。

### ①各分科会への分科会発表申込

原則として電子メールで申込み下さい。申込み用紙は日本科学者会議東京支部ホームページ (<http://jsa-tokyo.jp/>) にあります。Fax, 郵送も受け付けます。申込み用紙は次頁にあります。

**申込先**：18th-kagaku@jsa-tokyo.jp 「日本科学者会議東京科学シンポ実行委員会」宛  
**発表申込の締切日**： 10月10日（土曜日）

### ②予稿の提出

予稿は、A4判2ページ以内で、テンプレートで形式を統一します。（原則としてWord使用）統一形式のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。

**送付先**：18th-kagaku@jsa-tokyo.jp 予稿ファイルをメールに添付下さい。

**予稿の提出締切日**： 10月25日（日曜日）

## 8. シンポジウム会場&懇親会

**会場**：拓殖大学・文京キャンパス（東京都文京区小日向3-4-14）地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅下車

詳しくは <http://www.takushoku-u.ac.jp/map/bunkyo.html> を参照下さい。

**懇親会**：11月28日（土）18時00分より、拓殖大学・文京キャンパス。

## 9. 開催日程（会場の都合で一部変更となる場合があります）・参加費

11月28日（土）	09:30～10:00	受付
	10:00～12:30	分科会
	13:30～17:30	特別報告
	18:00～	懇親会
11月29日（日）	10:00～12:30	分科会
	13:30～17:30	分科会

	参加費	懇親会費
一般	2,000円	3,000円
院生・学生	1,000円	1,000円

\*会員・非会員の区別はありません。

\*参加費には予稿集代を含みます。

## 第18回東京科学シンポジウム 分科会発表申し込み用紙

2015年\_\_月\_\_日 (受付番号\_\_\_\_\_)

名 前(ふりがな)	( )
住 所	〒
連 絡 先	TEL : E-mail :
希望分科会名	
タイトル	
著 者 名 (所属 or 肩書き)	( )

概 要 (200字～400字)

(注) 原則としてeメールで申込みください。上記書式を用いず、必要事項を明記した text 送信も可。  
**必要事項**：申込者氏名(フリカナ)・住所・連絡先(電話, e-mail)・発表希望分科会・論文題名・著者名・所属 or 肩書き・論文概要(200～400字) (eメールが不可能な場合、郵送・Fax 申込みも可)

## 第18回東京科学シンポジウム実行委員会

池上幸江(支部代表幹事)、石田周(支部常任幹事)、石山修(支部常任幹事)、石渡真理子(支部常任幹事)、◎長田好弘(支部代表幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、小金澤鋼一(支部常任幹事)、☆佐川清隆(支部常任幹事)、中野貞彦(「日本の科学者」副編集長)、☆真嶋麻子(支部常任幹事)、俣野景彦(支部常任幹事)、○松永光司(支部事務局長)、宮田惟史(支部幹事)、山村延郎(支部幹事)、吉沢壮二郎(支部常任幹事)、米田貢(全国事務局長)

◎：実行委員長、○：事務局長、☆：事務局次長

日本科学者会議東京支部 第18回東京科学シンポジウム実行委員会  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階  
Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 18th-kagaku@jsa-tokyo.jp